

青谷の古代山陰道

—最新の発掘調査成果—



国内初のつづら折りの古代官道（養郷宮跡遺跡） 坂本 嘉和
(鳥取県埋蔵文化財センター)



古代官道（駅路）の特徴

- 都と地方を最短距離で結ぶために真っ直ぐ延びる。
現代の高速道路ルートと重なることもしばしば。⇒青谷も
- 道幅が非常に広い。
駅路は大路・中路・小路にランク付け。山陰道は小路。それでも道幅9m前後。
- 30里（16km）毎に駅家を設置し、駅馬をおく。

青谷付近は因幡国柏尾駅家の候補地の一つ。
国境を越えた位置には、伯耆国苅賀駅家の可能性がある石庭第3遺跡が存在。



琴浦町下高尾1号遺跡の道路遺構

本日お伝えしたいこと

1. はじめに

2. 古代山陰道の発掘調査

(1) 平野部の調査

- 青谷上寺地遺跡と青谷横木遺跡を結ぶ道路遺構を確認。

(2) 東側丘陵の調査

- 急峻な峠を越える、最大幅9mの大規模な道路遺構を確認。
⇒青谷横木遺跡から続く古代山陰道と考えられる。



鳥取県内の古代山陰道



1. はじめに

古代官道一律令国家が都と地方（国府）との情報伝達のために国家権力により整備した大規模な道路
七道駅路—北陸道・東山道・東海道・山陰道・山陽道・南海道・西海道



青谷の古代山陰道

平野部の国史跡青谷上寺地遺跡と青谷横木遺跡で確認。
国内初！柳の街路樹・条里（土地区画）とのセット。
朝鮮半島伝来の高度な土木技術『敷葉・敷粗架工法』



2. 古代山陰道の発掘調査

(1) 平野部の調査

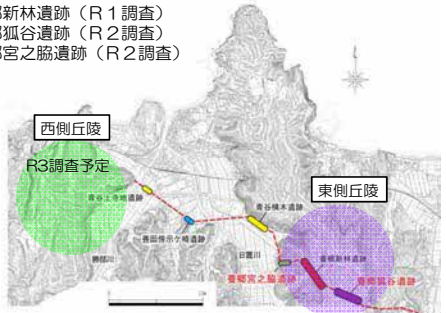
善田傍示ヶ崎遺跡 (R1調査)

(2) 東側丘陵の調査

養郷新林遺跡 (R1調査)

養郷狐谷遺跡 (R2調査)

養郷宮之脇遺跡 (R2調査)



丘陵部で見つかった道路工法

道路工法1：丘陵尾根の片側を切り、その切土で斜面側を埋め平坦面を造成する工法。

→丘陵における基本工法。

→秦の直道『塹山埋谷』(山を切り、谷を埋める)に通じる工法。

道路工法2：丘陵尾根を水平にカットし造成する工法

道路工法3：丘陵尾根に切通しを設ける工法

道路工法4：丘陵やせ尾根のくぼ地を大規模に埋め立てる工法

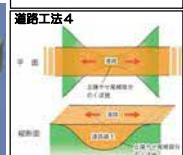
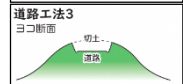
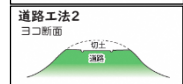
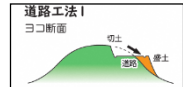
道路工法5

：つづら折りの工法

→直登できない急斜面でのみ採用か。

つづら折り部分

道路工法5



(1) 平野部の調査

善田傍示ヶ崎遺跡

盛土で築かれた幅5m以上の道路遺構

路肩から法面にかけて貼石で補強。

→青谷横木遺跡と類似。

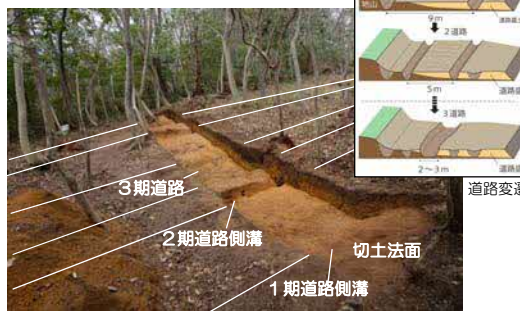


道路工法1

丘陵尾根の片側を切り、その切土で斜面側を埋め平坦面を造成する工法

(養郷新林遺跡トレンチ3など)

→丘陵における基本工法。



(2) 東側丘陵の調査

養郷宮之脇遺跡

養郷新林遺跡

養郷狐谷遺跡



道路工法1

丘陵尾根の片側を切り、その切土で斜面側を埋め平坦面を造成する工法

(養郷狐谷遺跡トレンチ1)



道路工法2

丘陵尾根を水平にカットし造成する工法
(養郷新林遺跡トレンチ2)

道路工法4

丘陵やせ尾根のくぼ地を大規模に埋め立てる工法
(養郷狐谷遺跡トレンチ4)

道路工法3

丘陵尾根に切通しを設ける工法
(養郷新林遺跡トレンチ1)

道路工法5

丘陵急斜面におけるつづら折りの工法
斜度：30~33度前後

道路工法4

丘陵やせ尾根のくぼ地を大規模に埋め立てる工法
(養郷狐谷遺跡トレンチ4)

トレンチ2から1方向を望む

道路工法5

丘陵急斜面におけるつづら折りの工法
最大幅9m、両側側溝